

# 船舶事故調査報告書

平成23年9月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 石川 敏行

	乗場
発生日時	平成23年6月7日 07時10分ごろ
発生場所	山口県長門市深川湾奥の只の浜海水浴場沖 長門市仙崎所在の王子鼻灯台から真方位224° 4,000m付近 (概位 北緯34° 22.3′ 東経131° 10.0′)
事故調査の経過	平成23年6月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第11 <sup>だいえい</sup> 大恵丸、17トン YG2-8029（漁船登録番号）、株式会社協同丸水産 14.88m (Lr) × 3.97m × 1.56m、FRP ディーゼル機関、670kW（連続最大）、平成2年12月17日
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成6年6月2日 免許証交付日 平成21年2月10日 (平成26年6月1日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船底擦過傷
事故の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、6隻の中型巻き網漁業船団（以下「本件船団」という。）の灯船 <sup>ひぶね</sup> として、平成23年6月5日14時00分ごろ長門市野波瀬漁港を出港し、深川湾の北方約5海里沖の漁場で2晩にわたる操業を7日06時00分ごろに終え、帰港することとした。 本船は、06時30分ごろ、自動操舵で船首目標を長門市 <sup>おおみ</sup> 青海島北西端に位置する竹ノ子岩沖に向けて速力約9ノットで南進した。 船長は、操舵室の椅子に座って単独で操船中、居眠りに陥った。 本船は、変針予定場所である竹ノ子岩沖を通過したのちも直進を続け、07時10分ごろ深川湾奥の只の浜海水浴場沖の浅所に乗り揚げた。 船長は、5日13時30分ごろ起床したのち、6日07時00分ごろまで操業に携わり、同日12時00分ごろまで睡眠を取ったのちに操業を再開し、翌7日06時00分ごろ2晩目となる夜通しの操業を終え、疲労を感じていた。 本船は、自力で離礁したのち、入渠のうえ修理された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 3、視界 良好 海象：平穏、潮汐 ほぼ低潮時（潮高 約37cm）

その他の事項	<p>本船は、居眠り防止装置を装備していなかった。</p> <p>本船の喫水は、船首約1.0m、船尾約1.5mであった。</p> <p>船長は、帰港中、操業明けで疲れていた甲板員に操舵室後方の区画で仮眠を取らせていた。</p> <p>本船は、変針予定場所である竹ノ子岩沖を通過したのち、仙崎瀬戸に向けて左転する予定であった。</p> <p>本件船団は、操業を終えたのち、分散して帰港していたので、当時、本船付近を航行していた僚船はいなかった。</p> <p>本船が乗り揚げた浅所の底質は、砂及び岩であった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、青海島北西方沖から野波瀬漁港に向けて自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して航行し、深川湾奥の只の浜海水浴場沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、操業により疲労していたことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p> <p>船長は、帰港中、甲板員に仮眠を取らせていたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が青海島北西方沖から野波瀬漁港に向けて自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して航行し、深川湾奥の只の浜海水浴場沖の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲板員を見張りに就けること</li> <li>・操業を終えて帰港する際、互いに異状がないか注意することができるよう、船団を形成した複数の船舶で航行することを検討すること</li> </ul>	